



サフラン便り

第30号 19年12月15日発行

発行:佐賀県薬剤師会女性薬部会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931

FAX:0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron/>

佐賀県薬剤師会史(仮称)作成経過報告()

H.19.9.7 「佐賀県薬剤師会史」作製プロジェクト立ち上げました。

- ・ 組織：委員長（高祖順一会長）副委員長（藤戸博、吉富直助、本田茂樹）
顧問（島田悟、江口皞、宇都宮甫、宮地信子、平野伸幸、今泉昌久）
作業部会：責任者（佛坂浩）責任者補佐（内田照彦）総務部（江口浩郎、橋本尚）
広報部（田中須磨代、野口敬介）青年薬部（中村賢）女性薬部（北島悦子、宮地和子）
- ・ 参考資料の収集を各会員に呼びかける。
- ・ 80歳以上の薬剤師の方への聞き取り調査（インタビュー）を実施する予定です。
- ・ 佐賀新聞の記事検索や、各県薬史から佐賀県に関する記事を抜粋。
- ・ 発刊目標：平成22年5月予定



H19.12.1. 顧問座談会が開かれました。

内容は、佐賀県の薬業界の戦後から現在に至るまでのエピソードや県薬剤師会会館の各事務所の思い出、医薬分業先進県となったきっかけや苦労話をお聞きすることができました。

皆様へのお願い

会史編纂には資料及び情報が不可欠です。写真、器具、記事等をお持ちの方は是非御一報ください。提供いただいた資料は責任を持って管理しお返しいたします。

日本女性薬剤師会「移動セミナー」について

そもそもこの移動セミナーは、日本女性薬剤師会が学術活動として、年1回東京で40年あまり開催してきた全国研修会を、各県女性薬の活性化と研修会参加機会を増やす目的で平成15年から名称を「移動セミナー」と変更し、その第1回目は医薬分業率第1位の秋田県で開催されました。今回の佐賀での開催は6回目になります。九州での開催要望があり、佐賀県女性薬部会が全国に先駆けてキッズルーム開設や診療ガイドライン通信講座などの活発な活動をしていること、部会なので佐賀県薬剤師会の協力も得やすいとのことで開催の運びとなりました。作業部会を立ち上げ在宅委員会の方たちと準備を進めています。これからは連携の時代であり男性会員の方の参加は不可欠です。是非皆様、ご参加よろしくお願いたします。

テーマ：「保健・医療・福祉の架け橋になろう」

内容：第1部「緩和ケア」「ターミナルケア」(佐賀大学医学部教授 佐藤英俊先生)

記念講演：東京女子医科大学教授 鎌谷直之先生

第2部「高齢者への服薬管理・指導」

日時：平成20年9月14日(日)9:30~16:00

場所：アバンセ(佐賀県立女性センター・生涯学習センター)



「疼痛緩和ケア」について

がん対策基本法が2007年4月より施行され、薬剤師の緩和ケアへの関わり方が注目されている。薬学6年制がスタートし臨床を目指した基礎研究や臨床研究も行われるようになり、我が国においてもWHO方式がん疼痛治療法は速やかに定着するものと期待された。しかし、医療用麻薬に対する誤解に基づく抵抗感が患者のみならず家族や医療者にもあり、医療用麻薬の使用量は先進諸国の中で最下位であるのが現状である。薬学においても今後、臨床に貢献できるような基礎研究を活発に行っていく必要がある。

調剤と情報10月号より抜粋

ちょっと一言

先日、体組成の測定をする機会がありました。私の結果は別にして、他のスポーツマン、スポーツウーマンも測定されていたので専門家からの説明を耳にすることができました。説明によると身体の筋肉の左右バランスが偏っているといくら筋肉質でも腰痛などの痛みを感じるそうです。心も身体も強弱ではなくて、バランスが必要だと言う事を改めて認識しました。これから年末にかけて何かと気忙しい時期になります。仕事も家庭も自分の事もバランス感覚を保って佳い年をお迎え下さい。(島田)

「さが子育て支援フェスタで」の相談内容 回答例

鳥栖三養基薬剤師会 徳淵昭代 上村 忍

前回のサフラン便りに掲載しました相談内容に対する個人レベルではありますが、回答を挙げさせていただきました。他の回答もあるかと思いますが、ご参考まで。

1. 生後2ヶ月から喘息治療。寝る前に吸入をさせている。その時の注意点。

寝つき方に影響はないか(気管支拡張剤は興奮作用がみられる)、あれば就寝2時間くらい前に飲ませるなどで対応する。

2. お尻におでき。アルメタを塗布して広がった(2歳・10ヶ月)

おできが出来る原因は様々考えられます。種類によっては、ステロイドを使用することで悪化する場合も考えられます。細菌を含んでいる場合などは、抗菌剤を必要とすることもあります。アルメタ軟膏をどのくらいの期間にかけて使用しているかなどを確認し、アルメタ軟膏が Dr.からの処方のものであれば、今の症状の説明と再処方のため、再受診をおすすめします。

3. 虫刺されてステロイド軟膏を購入。痒がっていつも塗布をせがむ(1・2歳)

一度このお薬を塗ってよくなったという印象が強く、子どもに関心を持った場合、その薬に対し依存性が出てくる子どもさんも多いようです。その他、薬局にある軟膏容器に入っているお薬を塗ってみるとよくなったという、子どもさんならではの暗示がかかる場合もあります。子どもさんの皮膚に顕著な症状が見られない場合は、白色ワセリンなどの保湿剤などで代用して、子どもさんの反応を見るのも一つの手段と思われるます。

4. アンヒバが効かない。突発性の発熱で3日間は仕方ないと言われた。

生後6、7ヶ月になると原因不明の高度の熱を出し、その熱が下がる頃に体全体に発疹がみられる突発性発熱を経験する子どもさんはたくさんいらっしゃいますが、解熱などの対処療法のための治療がほとんどだと思われるます。高度な熱の場合が多いため、熱性けいれんを心配される親御さんもいらっしゃいますが、これまでに熱が出てけいれんの症状がなかった子どもさんに対しては、特に心配する必要もないかと思われるます。高熱のため、体力が落ちることが考えられますので、水分やミネラルなどの十分な補給を心がけて下さい。

5. 風邪で1ヶ月以上ムコダイン・ペリアクチン・アスベリンを服用(1・2歳)

やめるとひどくなる。続服してよいか。

まずきちんと毎日飲んで1ヶ月でしたら、単なる風邪というよりも副鼻腔炎をおこしている可能性がありますので耳鼻科を受診することをお勧めします。すでに耳鼻科での処方の場合医師の説明に納得されなければセカンドオピニオンで違う耳鼻科を受診してみたいかがでしょうか？



6. インフルエンザとボルタレンはいけないと聞いたが、耳下腺炎の時、飲ませた。

インフルエンザの発症率が高くなる時期に、高熱が出たり、目がとろんとしてきたりなど、インフルエンザ感染が疑われる症状の場合は、アセトアミノフェンなどの解熱剤が使われるケースが多いようですが、インフルエンザではないと診断された場合は、ボルタレンでも大丈夫です。ただ、インフルエンザの検査によっては、まだ感染日が浅すぎて陽性でも陰性としてしまうこともありますので、注意が必要です。